

平成24年度第2回（第7回）花見川地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日時 平成24年8月22日（水） 18時30分～20時30分

2 場所 花見川公民館 1階大会議室

3 出席

(1) 委員 19人

※欠席委員 3人（井元委員、熊谷委員、黒田委員）

(2) 事務局 企画課高須課長、池田主幹、国方補佐、小口主査、山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者 16人

4 資料

(1) 資料1：地元代表協議会における協議の概要

(2) 資料2：話し合いの進め方について

(3) 資料3：「統合の時期」の考え方

(4) 資料4：施設整備内容と「統合の場所」の考え方

(5) 資料5：統合した場合の児童生徒数・学級数の状況(推計)

(6) 資料6：花見川地区の小中学校の通学区域

(7) 資料7：花見川地区の小中学校の校舎等の状況

5 概要

(1) 各団体における報告事項をもとに、協議会の方向性として「統合の時期」については小・中学校とも原則、平成27年4月に統合することとした。それに基づいて、次回協議会で「統合の場所」について協議することが確認された。

(2) 次回協議会は、10月10日（水）18時30分から花見川公民館大会議室で開催することとした。

6 会長挨拶

原田会長：前回協議会で統合する時期の案が出され、それを各団体が持ち帰り、話し合うところまでできた。協議会は第6回まで終えているが、これまでの経過をしっかりと復習し、後戻りしないよう整理して臨んでもらいたい。

いよいよ議題は「統合の場所」についての協議にも入っていく。いろいろな意見もあるが、十分に議論して進めたいと思うので、宜しくお願いする。

7 報告(本日の議長:安恒副会長)

(1) 前回協議会について

●発言要旨

安恒議長：事務局から報告をお願いする。

事務局：資料1をご覧いただきたい。前回、第6回協議会では、委員の紹介と承認の後、今までの協議の概要や平成24年度に算出した推計による花見川地区の小・中学校の状況等について事務局が説明を行い、確認した。その後、「話し合いの進め方について」や「花見川地区の小・中学校の通学区域」等について事務局が説明を行った後に、「統合の時期」および「統合の場所」について協議を行った。その結果、「第一小と第二小、第一中と第二中の組み合わせで、小・中学校ともに平成27年4月に統合すること」を原案として、各団体が持ち帰り、統合場所も含めて意見集約し、それに基づいて本日の協議を行うことが確認されている。

安恒議長：事務局からの報告について、質問や意見があればお願いする。

一 同：質問、意見なし

8 協議

(1) 花見川地区の学校適正配置の方向性について

安恒議長：事務局から説明をお願いする。

事務局：○資料2「話し合いの進め方」を説明

協議の第二段階に示したとおり、前回の協議会で「統合の組み合わせ」については、すでに方向性が決まっている。本日は、「統合の時期」と「統合の場所」について協議を行っていただく予定である。統合の時期については、原案として「小・中学校ともに平成27年4月に統合すること」が確認されている。

○資料3「統合の時期」の考え方について説明

- ・統合校の開校は、年度始まり（4月）とする。
 - ・「統合の合意（要望書の提出）から開校まで」の期間は1年半以上とする。
- この2点を基本に進めている。

児童生徒の交流については、市として統合を決定してから6か月間は計画を立て、統合前年度の1年間で交流を行っている。表の高浜地区の場合であるが、高浜地区は統合2年前の3月に要望書が出されたため、準備期間を2年間とることができ、余裕をもって進めることができた。

学校の施設整備については、統合が決定して9月頃から予算要望を行い、翌年には改修実施設計（改修前の設計）を立てることになる。

教育環境の整備、安全対策、制服、閉校式等の検討については、おおむね5回の統合準備会を行う中で、統合に向けて共通理解を図り、準備を進めている。

○資料4「施設整備内容と『統合の場所』の考え方」について説明

施設整備については、「千葉県学校適正配置実施方針」に沿って進めてきている。その中で、資料の枠内の3点を基本として統合校の施設整備を行っている。統合場所の選定実績については、先行5地区の統合例を記載している。

○資料5～7については、前回の資料と同様であるため説明なし

安恒議長：今の事務局の説明に対して質問はあるか。

一 同：質問なし

安恒議長：高浜地区で準備期間を2年間とったことで何か成果があったか。

事務局：統合する2年前の3月に要望書が提出され、4、5月に教育委員会で決定したことにより、早くから子どもたちの交流行事や先生方の準備を開始することができた。

安恒議長：統合の時期と耐震改修工事の兼ね合いについて教えてほしい。

事務局：千葉市の耐震化計画では、平成27年3月末までに学校施設についてすべてを耐震化する方向で進めている。ただし、平成27年4月以降に学校として利用しないことがわかっている建物については、耐震改修を行わない予定である。

安恒議長：26年度中に耐震改修工事を全て行うが、27年4月以降、使わない学校については、26年度末までに耐震改修工事はしないということか。

事務局：そのとおりである。

安恒議長：例えば、仮に平成27年4月に統合して、最終的に二小を使うことになったため、27年4月から一小を仮校舎として使用する場合、一小についても耐震改修工事をするということか。

事務局：そのとおりである。

原田会長：リニューアルの改修工事期間は、どのくらいを予定しているのか。

事務局：学校の状況や改修工事のボリュームによっても違うが、先事例からすると早くても1年間、長くても1年半の期間がかかると考える。

原田会長：対象になっている4校についてはどうか。

事務局：4校の改修工事については、現在、詳しい内容を担当課で精査しているため次回の協議会には工事についての詳しい資料を用意できると考える。

原田会長：もし、準備期間として2年間とれるのであれば、その間に改修工事を終わらせることはできないのか。統合してから工事をするのではなく、その前に改修を終わらせてしまうことはできないのか。

事務局：工事の規模にもよるが、大規模工事になると、その場に子どもがいる状態では工事はできないため、仮校舎としてどちらかの学校に子どもが移転した後に工事に着手することになる。

原田会長：対象になっている4校の場合はどうか。

事務局：工事内容を担当課に確認を取り、次回の協議会で示させていただく。

阿部委員：花島小を見ても、どんな工事でも子どもが居ながらの工事はできないのではないか。耐震改修工事については、どのような場合でも早めにやってもらいたいが、子どもが居ながらにしてできるものなのか。

事務局：耐震改修工事については、今までも子どもが居ながら実施してきているので大丈夫である。

原田会長：統合校の場所がどこになるかは決まっていないが、4校であることはわかっているため、それぞれの学校について、工事期間がどの程度になるか、居ながら改修工事はできるのか等、資料を出していただきたい。

事務局：次回に資料を用意する。

埴委員：資料4の統合場所の選定で高洲小学校における「高洲地域の学校配置のバランス」という理由がよくわからないので、説明してもらいたい。

事務局：高洲地区は3ブロックにわかれ、その中に中学校が1校、小学校が3校あった。その中の1ブロックには現在もある高洲第三小学校がある。もう1つのブロックには旧高洲第一小学校、他の1ブロックに旧高洲第二小学校と高洲第一中学校があった。もし、中学校に近い小学校を残すと、一方には小学校と中学校があり、他方には学校がなくなるということになるため、各ブロックに1校ずつにするようにした。

安恒議長：それは通学路に大きな影響が無い状況の中であり、災害時の避難場所等を踏まえてそうしたのか。

事務局：そのとおりである。

安恒議長：それでは今までの説明を踏まえ、協議を行う。原案としては、「小・中学校ともに、同時に平成27年4月に統合すること」となっており、「学区は変更なし」で考えてくることになっている。これから、「統合の時期」と「統合の場所」について、各団体で話し合ってきた内容の報告を含めて、一人ずつ発言をお願いする。

板谷委員：花見川第一小PTAは7月中旬に全世帯にアンケートを実施した。165世帯で52%の回収率だった。

○1問目「平成27年4月の統合校開校についてどう思うか」

適当である33%、早い8%、遅い18%、どちらともいえない40%
その他 1%

「適当である」と「どちらともいえない」で70%を越えており、27年4月開校については一応の賛成が得られた。

○2問目「統合校の開校の場所について」

一小のままでよい68%、二小でもよい2%、どちらでもよい25%、
その他 5%

「一小のままでよい」が一番多かった。

○3問目「中学校の同時統合についてどう思うか」

同時統合でよい56%、同時統合すべきではない9%、
どちらでもよい33%

高学年は同時がよいという意見も多いが、低学年の方はそうでもなかった。

その他として、地域の方からいただいた意見では、安全面や広域避難場所等の関係で一小を残してほしいという意見があった。また、一小には特別支援学級があり、場所や施設が変わることは、特別支援学級に通う子どもたちには大きな負担になるので、例えば大規模改修工事のため仮校舎に移動して1年で戻ってくると言うのはとても不安に思われている方が多いことがわかった。そのほかの保護者は、子どもたちにとって安全で設備がよくなるのであれば、早く進めてほしいという意見が多かった。

鶴田委員：先日、柏井小体育館で地域の方と保護者との話し合いを持った。統合時期等については特に意見が無く、全員同意してくださった。

統合校の場所については、次の意見が出された。

- ・柏井小としては一小と二小の方々の意見を見守っていくというスタンスではあるが、先ほどの話にあったように地域のバランス的に一小を残した方が避難

場所等よいのではないか。

- ・中学校については、柏井小付近から二中に通学するのは距離的に困難であるため、一中を残してほしい。
- ・現在の一中のグラウンドでは部活動において十分な広さの確保ができていないという状況を聞いている。一小を残せば、二小の跡地を一中のグラウンドとして活用することで、充実した部活動が行えるのではないか。
- ・小学校については、中学校との連携交流ができるので二小がいい。

金井委員：三小は、前々回の協議会により今回の適正配置の対象からははずすということで、5月31日に保護者に報告をしたままの状態になっている。中学校の統合も入ってくるので、9月に入ってから再度、保護者対象に説明を行っていく予定である。そこでは距離的な問題も出てくると思われる。統合の時期については、27年4月でもよいが、十分な準備期間を取ってほしいと思う。

西田委員：6年生の保護者から、中学3年時に中学校が統合することに不安であるという相談を受け、7月19日に6年生対象の保護者会を開催したが、3名しか集まらなかった。後日、欠席された保護者の方々に話を聞くと、協議会の決定にお任せするという事だった。また、出席した方の中で、花島小の統合にも関わり、統合に反対という考えだった保護者は、花島小の立ち上げの際にトラブルもあり、大変だったためという理由であったが、いろいろ話をしていくうちに、最終的には27年4月の統合に合意してくださった。

ただ、要望として、統合時にカウンセリングの専門家を配置して子どもに対するケアを十分に行ってほしいということと、リニューアル改修の際、花島小の床は汚れやすく、子どもたちが掃除をするのが大変なため、違う素材で改修してほしいという2点をあげたい。

伊藤委員：一中では7月上旬に協議会での決定事項を保護者にお知らせし、自由に意見を言ってもらえるようなアンケートを実施した。世帯数は300世帯程度で回収は75件であった。その内、統合反対の意見は5件だった。

その反対の意見については、以下のとおりである。

- ・現状維持でよい。
- ・統合は必要ない。
- ・現在4クラスある学年もあるのだから統合しなくてもよい。
- ・教員の充実や精神的なケアなど、学校の努力を期待する。

それ以外に、反対意見はなかった。

全体のアンケート結果では、通学路の安全確保について、現在でも危険な場所があるので十分に検討してほしいという意見が半数以上出された。

具体的には、

- ・現状でも自転車通学が危険であり、距離が増えれば尚更危険ではないか。
 - ・学区が変わらなく、校舎が二中になってしまうと、横戸地区の生徒はさらに危険が増えるのではないか。
 - ・柏井地区から通学する生徒は、交通量があり道幅も狭い道路を自転車通学することになり、事故が起こらないことを祈るばかりである。
 - ・今後も安全面で各方面の方々のご尽力をお願いします。
- というような通学路の改善に対しての意見が多々あった。

その他に出された意見や質問は次のとおりである。

- ・統合には賛成だが、子どもの心のケアをしっかりとやってほしい。
- ・統合前に学校間の交流の機会をしっかりと持ってほしい。
- ・交流によって環境を整えてほしい。
- ・部活動は現状のまま残るのか。
- ・制服はどうなるのか。
- ・学習面や部活動など、各校の差に対するケアもやっていただけるのか。
- ・小学校はクラスが少な過ぎるので良いが、中学校は人数が増えるので、一人一人の生徒に目が届きにくくなるのではないか。
- ・校舎はどうなるのか。 等

アンケートの結果を整理すると、統合に関して反対は5件で、それ以外はプラスの意見を含めて、おおむね賛成であり、統合場所としては通学路の安全面に大きく不安が残る二中ではなく、一中でお願いしたいという意見が多く出ている。

渡辺委員：二中では7月4日に第2回運営委員会を開催し、クラス代表の保護者に話を聞いた。その中にお子さんが小学6年生の時に花島小の統合を経験された保護者がいらして、その時の統合に問題があったのではないかという意見をいただいた。そのお子さんは花島小の1年間は問題はなかったが、中学校にあがったときに、学年や学校で荒れて、3年間その状態で卒業していったというご意見だった。その方の話が中心となったため、他の保護者の話を聞くことはできなかったが、花島小を卒業して二中に入学し、その後の中学3年間でいったいどんなことが起こったのかを、その当時の保護者からも話を聞いてみた。

実際、花島小で統合があったから、中学校が荒れたのかと聞くと、それは後づけではないかという意見もあり、中学校には三小も一緒に入学したので、そこで荒れたのではないかという意見もある。どちらが原因かという特定はできないのではっきりしないが、花島小で統合を経験された保護者は、統合がきっかけではないかという意見もいくつかいただいた。ただし、花島小の統合を上のお子さんで経験して、下のお子さんが今回の統合の対象になる保護者に話を聞いても、統合反対というはっきりとした意見はお持ちではなく、成り行きに任せるという感じであった。しかし、上のお子さんで花島小の統合を経験された保護者の中には、今回の統合に対してかなり不安を感じていらっしゃる方もいた。

結局、子どもがどう考えるかが重要であり、できれば、準備期間を多く取り、子ども同士がよい形で統合できれば一番いいのではないかと思う。

統合の時期については、自分の子どもが対象になるかどうか大きな意味合いを持つので、この会議の決定に従い、円滑に準備を進めていくことを伝えていくしかないと思う。

場所に関しては、時間の関係であまり聞くことができなかったが、やはり、柏井や横戸地区のお子さんが二中に通うことは難しいのではないかという意見は多数出ている。設備的に二中は一中の10年後に校舎が建っていることや、校庭の形状を考えると二中の方が学校や設備がいいのではないかと思うが、通学路を考えると、一中の方が妥当ではないかという意見が多かった。

また、もし、二中がなくなると決まった場合、その段階で、入学時から隣にある天戸中に通うことを希望しているご家庭のお子さんは、天戸中への入学を認めて

もらえるのかという意見があった。花島小寄りの二中校区の生徒は一中でも環境は変わらないが、三小寄りの二中校区の生徒は、天戸中の方が場所における環境が変わらない。したがって、三小校区の保護者に、そういう意見の方が多かった。ただし、子どもたちの考え方はわからないので、希望があればということである。さらに、一年生から天戸中に入学できるように手続きが緩和されるのであれば、統合を経験させずに最初から天戸中に入学させたいという保護者もいる。地域の方からの意見では、二中校区には団地の部分と、天戸町という町の部分があり、それらの自治会は全く別なものであるため、今、そういうように変わるのであれば、天戸町地区を天戸中に転入という形で、学区変更も検討していただきたいという希望もあった。

安恒議長：進め方でこうしてほしいとか、こういうことをやるために時間を取りたいといった、具体的な進め方の意見はあるか。

渡辺委員：中学は3年間しかないため、特に受験を控えた3年生で統合する場合、中学校に入学した4月から交流を始めて2年間の交流ができた方がよいという意見があった。花島小の時にも交流はあったが、5～6回しか交流がなかったため、統合時に戸惑いがあったという話も聞いている。27年4月の統合ならば、25年4月までに要望書を提出して8月頃からは交流を始めた方がよいと考える。

川口委員：二小は7月に保護者対象のアンケートをとった。104世帯中72世帯の回答があった。

○1問目「平成27年4月の統合校開校は妥当か。」

妥当である61世帯、妥当でない5世帯、どちらとも言えない3世帯
無回答3世帯

反対意見では、時期が早い、自分の子どもがいるときにはやってほしくないという意見があった。

○2問目「統合校をどちらに寄せるか。」

一小到に寄せる3世帯、二小到に寄せる65世帯、新しい校舎を建てる1世帯
どちらでもよい1世帯、無回答1世帯

一小到に寄せるメリットは校庭が広いからという意見があった。二小については、小中隣接している利点と安全性が高いことがあげられた。

具体的な意見は次のとおりである。

- ・将来的に小中一貫校になった場合に連携しやすい。
- ・災害が発生した場合に兄弟がいると安全確認や協力体制が取りやすい、保護者への引き渡しもしやすい。
- ・隣接していると連携が保たれて、いろいろな情報が共有できる。
- ・二小到に寄せた場合、一小の子どもたちも大通りではなく、団地内を通過して通学することができ、安全確保もできる。
- ・空き施設になった場合も一小は大通りに面していて、バス停や駅からも近いことから、他の施設としても利用価値がある。

○3問目「中学校の統合が27年4月で適切か」

適切である56世帯、適切でない9世帯、どちらともいえない6世帯
無回答2世帯

○4 問目「中学の統合校をどちらに寄せるか。」

一中に寄せる 64 世帯、二中に寄せる 2 世帯、新しい校舎を建てる 1 世帯
どちらでもよい 1 世帯、無回答 6 世帯

一中に寄せるメリットとしては二小に寄せるメリットと変わらない。ただし、二中に寄せた場合は柏井小の子どもたちの通学が遠すぎて困難になるのではないかという意見もあった。

全体として、今回の適正配置についていただいた意見としては、

- ・統合校として隣接する一中と二小を残すことは通学の安全確保、防災対策の強化、連携が取りやすい、また、小中合同の新しい教育活動の提案をしやすいなどの点から望ましい。
- ・根本的には統合は反対だが、避けられない状況にあり、この統合を機に地域の子どもがよりよい環境で学べるように話し合いが進むことを願う。
- ・何年も前から統合の話あったのに、もっと早く統合すべきである。
- ・統合するならもっと前に情報を開示してほしかった。

という意見が出された。

茂木委員：アンケートは統一して取っているのか。

安恒議長：統一してはいない。

茂木委員：アンケートは統一した方が良いのでは。各学校の事情がうかがえるので、統一した方が良いと考える。

安恒議長：今は統合の時期と場所について発表いただいているので、このことについての意見は、特によろしいか。

茂木委員：よい。（特にない。）

阿波崎委員：学校が荒れてしまったという話もあったが、これらは年回りでくるものではないか。統合が原因でそうなったというのはいいか。そうならないように、この場でしっかりと話し合っていくべきである。保護者、家族みんなで、もっと強い子どもを育てていければ問題は解決できるのではないか。そうすれば、統合に惑わされない子どもを育てることができると思う。

境委員：8月4日に柏井小で第6回の報告会をやった。先ほどの柏井小の報告どおりである。統合と子ども自身の精神的な問題の関係は難しいと思うが、環境は異なるが自分の経験からはあまり関係はないと考える。

埴委員：一中も長い歴史の中で荒れた時期もあった。親としてではなく、自分が卒業した学校と思うくらい、一時は関わった経験がある。保護者と教員の協力で沈静化し、浮き沈みはあるが、今では静かで落ち着いた環境が出来上がっている。統合については学校評議員会の中でも話題に出た。部活動を考えると統合場所が二中だと校庭は今の場所しかあり得ないが、統合場所が一中で二小が跡地になったときには、併せて広い校庭にすることができるのではないかという話も出た。先ほどの二中の話では、統合した花島小から二中に入学して荒れたということと、希望があれば天戸中への入学を認めてほしいということであったが、二中学区にいた子どもが突然、天戸中学区に入っていくことは大丈夫なのかということが疑問に思った。

茂木委員：報告に対しての意見は言わないほうがよいと思う。

渡辺委員：二中が場所的に天戸中と接していて、保護者の中には、お子さんが通学する学校は同じ環境の中にある学校に行かせたいと考える方もいる。そういう場合は個人としてそのお子さんが天戸中に入学することを認めてもらえるかどうかということである。

安恒議長：本日の論点と違ってきてしまうので、統合の時期と場所について話を戻すこととする。

坂本委員：毎回役員会で報告している。ちょっと気になったのは、育成委員の方が間違えて聞いたのかもしれないが、統合は決定し、新しい校舎ができると発表されていた。その場で違うという訂正をしたが、そういう話があったことを報告しておく。

阿部委員：地域的な話になるが、すでに統合の話を踏まえて三小に入学すべき児童が作新小に行ってしまう、境界線上の町内会が成り立たない実情がある。また、もう少し時間をかけて話し合った方がいいと感じるのは、実際には、ほとんど考えていないという状況があると思う。特に中学校の統合については、もっと真剣に考えていかなければいけない。

荒れる、荒れないではなく、受験を前にした子どもたちにとって統合という負担はあまりにも大きく、本来、中学校は統合すべきではないという意見もある。

子どもたちがどうあるべきか等、もっと、この協議会の中で話し合うべきである。

二中が荒れた話が出たが、あのときは大変であり、自分の子どもは自分で守るといふ意気込みで臨んでいった。かつての意気込みを今の保護者に経験させるのは無理であろうからこそ、我々が頑張らなくてはいけないと思った。荒れた当時の校長は、1クラスの生徒数を極力少なくして、目が届くようにした。クラスの数を増やすことも大切だが、一人一人の子どもたちに対して、みんなでどう対応していけるかが大切であったと思う。最近でこそ、二中も落ち着いてきた。何が原因かはわからないが、親の生活が大変で、子どもを育てること自体が困難であり、親の貧困が子どもに伝わることは確実にあるし、統合については特に、学習面がアンバランスの中で統合したら交流どころの問題ではないので、慎重に時間をかけて、どうしたらいい教育を受けさせられるのかを議論し、よい学校生活を送れるようにしていけたらと考える。

早坂委員：自治会は年配者が多く、話をしても関心が少なく、意見が出ない。ただし、中学校3年間については大切なので、じっくりと話し合っただけで時間をかけて決めた方がいいのではないか。

佐藤委員：先ほど鶴田委員が話したとおりであるが、時間ばかりとって仕方がない。

早く決めた方がよいという意見や27年4月統合でよいという意見、柏井地区から二中までは通えないという意見もあった。また、今年生まれた子どもは6年後に一年生になる。行政はもう少し将来のビジョンをもって早めに対応してほしい。さらに、二中が荒れた話については、統合になったから荒れたということもあり得ないと私は思っている。

小石川委員：花島町町内会は地元学区である花島小が6年前に先進的に誕生したばかりであり、一中共々、児童生徒は落ち着いて平穏な学校生活を送っていることから、適正配置の問題は関心度がさほど高くないように思える。その中で、意見の募集をしたところ、地元学区の花島小、第一中への思い入れは強く、是非とも

一中を残してほしいという意見が強かった。

また、統廃合の具体的な話よりも、跡地に対する希望的な意見が多数出てきた。旧花見川第五小の跡地にはショッピングセンターがほしい。団地の中に介護福祉施設や駐車場、花見川公民館といった話があった。統廃合については、複雑で高度な話なので専門家にお任せするという意見もあった。

藤井副会長：今回も報告会を実施したが、さきほど渡辺委員から発表があったとおり、学区の変更をぜひとも容認してもらいたいとの意見が多数あった。たとえば二中校区の学区の中にも、花島小からは一中また二中へ進む生徒はいるが、1街区全体と2街区の1～9棟までの生徒は、三小から二中に入学している。そういう中で、地域的な含みを考えると、せめて1街区および近隣の天戸町の生徒は二中の裏にある天戸中にいけるように学区変更をしてほしいと望んでいる。また、最近では1街区と2街区の近隣にマンションが建設されたり、天戸町の中に戸建て住宅もできはじめています。そういうところからの意見を含めても、今までは学区の変更はなしということで進めてきたが、改めて、今後の協議のひとつとして、学区変更の話がでてくることになると思うので、よろしくお願ひしたい。

さらに、育成委員会のメンバーは年配者が多い。そういう立場からも実際に、今、各学校に通学している生徒の保護者の意見を最優先して取り上げていくことが最も大切であると感じた。二中が統合によりなくなれば、二中の育成委員会もなくなることになる。そういう意味で、二中保護者の代表として報告された内容を重要視し、育成委員会としては今後とも二中の意見に同調していきたいと思っている。

安恒議長：一中育成委員会もいろいろな議論はあったが、時期については時間をかけすぎてもよくないので、27年4月でよいということであった。場所については、当事者であるPTAの希望を重視して、検討していったいいのではないかとということであった。

ただし、中学校についてはやはり柏井地区の生徒は二中までは通いきれないという現実的な問題があるのではないかと。また、小学校については一小を存続させて一中と二小跡地を連結させる運用をしてはどうかという意見があったのと、逆に二小を存続させた方が地理的に団地の真ん中に近いという部分もあるのではないかとという意見もあり、どちらもメリット、デメリットがあるであろうということであった。

事務局：各団体から詳しく報告をしていただき、いろいろなご意見が出された。

安恒議長：時間も過ぎているので、各団体の報告を整理してみたい。

- ・統合場所に関する一小と二小の各報告は逆の方向を向いているので、今後の協議会の場で検討していくことが必要である。
- ・アンケートをとられた学校については、消極的な賛成を含めて平成27年4月でいいのではないかとというのが大勢を占めている。
- ・二中と三小については、学校の中の意見がまだ若干、集約できていないという状況があるように思える。
- ・柏井小や各学校の評議員からは、いろいろと意見が出されており、もっと時間をかけた方がよいという意見もあった。
- ・子どもたちの精神的なケアをしながら、スムーズかつトラブルがないように

統合を進めるという議論が大切であるという意見があった。

このような意見を踏まえて、結論を出すというのは難しいとは思いますが、少しずつ具体的な内容を決めていかないと進まないという所もある。今日、完全に結論を出すと言うわけにはいかないが、大きな反対はなかったことを受けて、統合の時期について、おおよその協議会の方向性として、平成27年4月を目標に進めていくということによろしいか。いろいろなことが詰め切れなければ、最終的にその時期は無理であるということもあり得るが、原則として平成27年4月に統合するということによろしいか。

一 同：異議なし（了承）

安恒議長：今回は統合の場所についての協議を行う。今回、一小および二小についてのメリット・デメリットをある程度、各団体で説明していただいているので、事務局にまとめてもらい、次回、議論をしていきたいと考えるが、そういう整理を事務局にお願いしてよろしいか。

事務局：次回の資料として、本日ご意見いただいたものをメリット、デメリットに整理して準備させていただく。

安恒議長：本日の内容については、各団体で持ち帰り、意見を集約して次回に臨んでいたたきたい。

（2）次回協議会について

事務局：今回は、平成24年10月10日（水）18時30分から、花見川公民館でいかがか。

一 同：異議なし（了解）

9 諸連絡

事務局：以下を連絡した。

- 1 議事要旨（案）の確認：修正があれば返送期限に回答する。また、教育委員会のHP上にも公開させていただく。
- 2 本日の協議内容：各委員が持ち帰り報告し、意見集約をお願いする。
- 3 欠席する場合：事務局へ連絡をお願いしたい。

佐藤委員：小中一貫校について、千葉市としてはどう考えているのか。次回、教えてほしい。

事務局：次回の協議会で、小中連携や一貫校の考え方について説明させていただく。

埴委員：差出人の住所が書かれていない封書が私の元に郵送されてきた。私としては予断の意見を入れることは避けたいので、封を切らずに受け取り拒否をしようにも住所がないため出来なかった。

私は、この協議会が正式な学校適正配置を検討する話し合いの場であると思っている。今後、このようなことはやめて欲しい旨を、この封書の差出人についてご存じの方がいらっしゃったら、伝えていただきたい。

10 閉会（原田会長挨拶）

いろいろな意見があり、できるだけ十分に議論していきたいという意見もあるが、最終提案として平成27年4月に統合という線も出ているので、できれば、来年3月いっぱいまでにまとめていきたいという気持ちはある。準備期間を十分にとること、改修工事の期間のこと等も考慮して、許す範囲で十分に議論をしていけるとよい。一番大切な子どもの教育環境を見ると、平成30年の予測まで出されており極端に子どもが減少傾向にあるということを入念に入れて、子どもの立場で考えていかなければいけない。

学校が荒れた問題では話を聞いている限り、統合が原因か、それ以外に原因があるのかは何とも言えない。冷静に原因を考えていかなければいけないが、統合が原因であると決めつけるのはやめていただきたい。

これから具体的な話になってくると、それぞれの利害が対立してくることも出てくると思うので、冷静に子どもの立場に立って何が一番いいのかをこの協議会で決めていきたいと考える。